

行動目標および学習内容

1) 小児看護学実習 I (保育所・保育園)

学習目標	行動目標	学習内容
1. 健康な子どもの成長発達過程を理解する。	1) 子どもの成長発達について述べることができる。	①形態的成長 ②精神運動機能の発達 ③心理社会的発達 ④患児の価値観・信念 ⑤環境の影響
	2) 成長発達の評価ができる。	①正常値、標準値との比較 ②パーセンタイル値、カウプ指数、ローレル指数 ③性差、個別性
2. 成長発達段階に応じた保育・教育に参加し、学習する。	1) 発達段階に応じたコミュニケーションを図り、子どもと人間関係を構築できる。	①コミュニケーションスキルの学習と実践 (コミュニケーション、対人距離、対人角度、パーソナル・スペース、バーバル・ノンバーバル等)
	2) 発達段階に応じた基本的生活習慣(食事・排泄・睡眠・更衣など)の獲得と自立に向けた援助を理解できる。	①食事: 食事介助・食事習慣としつけ ②排泄: 排泄介助・排泄習慣としつけ ③睡眠: 睡眠環境・午睡への誘導・睡眠習慣としつけ ④清潔・衣服の着脱: 清潔習慣としつけ ⑤集団保育の内容、方法、技術
3. 看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた援助を考察できる。	1) 子どもの権利を尊重する	①ユニセフの「子どもの権利条約」1994年日本批准 ②日本看護協会の「小児看護領域の看護業務基準」1999
	2) 健康な子どものフィジカル・アセスメントができる。	①小児のフィジカル・アセスメントの学習と実践(視診、問診、触診、聴診等)
	3) 園児の安全を守るために発達段階に応じた事故防止と感染予防の援助ができる。	①保育所・保育園の構造と施設、設備 ②避難訓練、危機管理 ③衛生習慣としつけ・集団感染予防 ④保育園の規則・行事・日程 ⑤食物アレルギー対策 ⑥体調不良児への対応
	4) 地域社会における親子、家族関係を考察できる。	①子どもに関わる看護職の役割 ②地域における子どもと家族への支援 ③社会資源
4. 子どもにとっての遊び(個と集団)の重要性を理解し、成長発達を促す関わりができる。	1) 子どもと親しみを持って関わり、個の遊び、集団の遊びを実践することができる。	①成長発達段階に応じた遊びの選択 ②遊びと成長発達との関連性 遊具、玩具、興味、趣味、関心の度合い、集中度、参加度、運動量、上肢・下肢の運動、友人との関わり方、保育士との関わり方、成人との関わり方
	2) 子どもにとっての遊びの重要性を述べるができる。	③遊ばせ方と玩具、遊具の選択と工夫

2) 小児看護学実習Ⅱ (病院・施設)

学習目標	行動目標	学習内容
1. 子どもの人権を尊重し、ライフサイクルの中での小児とその家族の看護を理解する。また成長発達を促すための看護、子どもと家族のQOLを維持・向上する看護を考えることができる。	1) 患児の成長発達段階を観察し、評価できる。	①形態的成長 ②精神運動機能の発達 ③心理社会的発達 ④患児の価値観・信念
	2) 患児の生育暦・環境・キーパーソンの把握	①生育暦 (妊娠・分娩・出産暦～現在) ②家庭環境 (両親、兄弟姉妹、祖父母との人間関係) ③キーパーソン ④子どもの入院に伴う家族の問題 ⑤子ども・家族の疾患に関する理解の状況
	3) 入院が患児や家族に及ぼす影響を考えることができる。	①家族のソーシャル・サポート
	4) 家族のソーシャル・サポートの把握	①ユニセフの子どもの権利条約より考察 ②看護師の倫理規定(日本看護協会 1998)より考察
	5) 子どもの人権を尊重する	
2. 対象の成長発達段階・健康状態に応じたコミュニケーション技能と家族を含めた対人関係能力が必要なことを学ぶ。	1) 患児の健康状態や症状に合わせて健康回復への適切な援助ができる。	①病態生理 (疾患の定義、疫学、症状、検査、経過、予後、診断基準等) ②健康障害の段階と評価 (急性期、慢性期、回復期、終末期) ③成長発達段階に応じた援助 (看護計画)
3. 子どもを環境より捉え、成長発達段階・疾患の状態に応じた日常生活の援助を考えることができる。	1) 子どもに適した環境を整えることかできる。	①病棟の構造・設備・規則・日課の把握 ②病棟行事の把握 (年間、月間、週間) ③ベッドメイキング、リネン交換 ④病室の温度・湿度・照度 ⑤ベッドおよびベッドサイドの整理整頓
	2) 発達段階に応じた食事の援助ができる。	①必要な栄養素・カロリー ②食事環境の調整 (観察、介助) ③食事制限のある患児への援助
	3) 発達段階に応じた排泄の援助ができる。	①排泄への援助 (排泄の観察、介助)
	4) 発達段階に応じた睡眠・休息の援助ができる。	①睡眠状態の観察 ②午睡の準備・睡眠環境の調整・午睡への誘導、睡眠習慣の把握
	5) 発達段階に応じた更衣の援助ができる。	①更衣自立への援助 (観察、着脱の介助) ②関節可動域に応じた援助
	6) 患児と家族に対して適切な援助が考え、一部実践ができる。	①全身の観察 ②患児に適した方法の選択 ③清潔習慣の形成への援助
	7) 発達段階に応じた移動・活動の援助ができる。	①成長発達段階に応じた姿勢・体位・移動 ②赤ちゃん体操、マッサージ、外気浴
	8) 発達段階に応じた患児に適した遊びや学習の援助ができる。	①成長発達段階に応じた遊びの選択 遊びと成長発達との関連性、遊具、玩具、興味、集中度、参加度、友人との関わり方、成人との関わり方 ②健康段階に応じた遊びの工夫 ③成長発達段階に応じた学習指導